

想像以上に学校に知られていない電気設備工事業界の基礎知識!! この問題を打開していくことが採用状況の打開にも繋がるはずだ①

【出席者=本紙編集部一同】

☆現場代理人って何? という驚きの質問が……

司会者 時節柄、今週の座談会も就活・採用試験シーズンのお話になるけども、今年、大学や専門学校などを取材していて、何か気付いたことはあるかい?

記者C 今更ながら、なんですけど、今年改めて驚いたのは、電気設備工事業界の基本を把握している学校の先生方というのは、とても少ないのだなということなんです。

司会者 それはどういうことですか?

記者C 端的には、例えば電気設備工事会社に入社すると、現場で働く技術職の職種は、現場代理人と電工さんに大別できますよね。それが、まあ、業界の常識だと思っていたんですが、実は世間ではそうじゃないのだということを知って、とても驚いたんです。今更、ですけど(笑)。

記者A あ、それは分かる、分かる! そんなこと常識だと思っていましたけど、職業訓練校や専門学校はまだしも、大学ではほとんど知られていないのではないかと。それは私もつくづく感じましたね、大学を回っていて。

司会者 え! そうなのか!

記者C 大学の先生方も学生の多くも、電気工事とか設備工事とかいうと、電工さんが配線をするというイメージ。端的には電柱にのぼって電線をいじっているという、あのイメージのままだという例が実は多いんです。驚くべきことですが。

記者B それはほくも感じたことがあるなあ。それ以前の問題として、現場代理人という位置付けの職種が理解されていないというべきかと思います。

記者C そうそう。電工さんが配線工事をする職種だという認識はね、それとずいぶん大雑把なだけ

ど、とりあえずあるんだよね、共通認識として(笑)。ところが、現場代理人という施工会社を代表して現場の一切の進行管理をする立場の職種があるということについては、驚くほどに理解されていない。これは業界企業の方たちが聞いたなら「嘘だろ」と驚くかもしれないほどに、知られていないです、実際。

記者A そうなんだよね。だからこれまでは、そういう反応をする先生方がいると、現場代理人についての解説をしてきたんだけど、就職担当の先生方も変わるからね、数年間隔で。そうするとまた、新しい先生から聞かれるんだ。現場代理人って、どういう仕事をするのって(笑)。

記者B そうだね。それでなぜ、今年になって私たちがそういうことに改めて気付いたかといえば、新型コロナウイルス禍をキッカケに、大学側から独立系の電気設備工事業者のことを知りたいという申し入れが増えましたよね。

新型コロナのせいで、去年は内定がなかなか出ないという学生が続出しましたよね。それで中堅以下の電気設備工事業者にも、いつも以上に大学の先生方や学生たちの興味が増したということからなんだろうけど。

記者A そうそう、そうなんだよ。それで大卒の場合は現場代理人になるケースが多い。理数系の学部出身者ばかりでなく、文系の学部卒の学生でも、現場代理人になる学生がかなり多いというような説明をすると、先生方が驚く訳だ。「なんです、その現場代理人というのは」と(笑)。

司会者 今まで電気設備工事会社には大卒も専門学校卒も、職業訓練校卒も含め、膨大な数の人たちが就職してきて、実際に活躍している訳だけど、その情報が学校にはフィードバックされていないという